

Ⅱ 令和5年度広島かき生産出荷状況

1 生産量

区 分		令和5年度		令和 4年度	平 年
		対前年度 (比率)	対平年 (比率)		
総生産量(トン)	17,800	+700 (104%)	－330 (98%)	17,100	18,130
生鮮向け(トン)	5,200	－1,000 (84%)	－1,980 (72%)	6,200	7,180
加工向け(トン)	12,600	+1,700 (116%)	+1,650 (115%)	10,900	10,950

(注) 平年：平成 25～令和4年平均値

(水産課調べ)

(1) 生産量

ア 総生産量は 17,800 トンで、前年を4ポイント上回り、平年を2ポイント下回った。

イ 生鮮向けは 5,200 トンで、前年を 16 ポイント、平年を 28 ポイント下回った。

ウ 加工向けは 12,600 トンで、前年を 16 ポイント、平年を 15 ポイント上回った。

(2) 生産状況

ア 採苗は、かきの餌が多い広島湾北部海域への母貝筏の設置や、かき幼生調査結果等の共有化を図ったことで、7 月末には必要数量を確保した。

イ 出荷は、広島かき生産対策協議会において「起点日と定める 10 月 1 日以降において、漁業協同組合ごと、あるいは生産者個々が、かきの身入り、消費動向、需要を見て最善と思われる時期に開始する」ことを決定した。

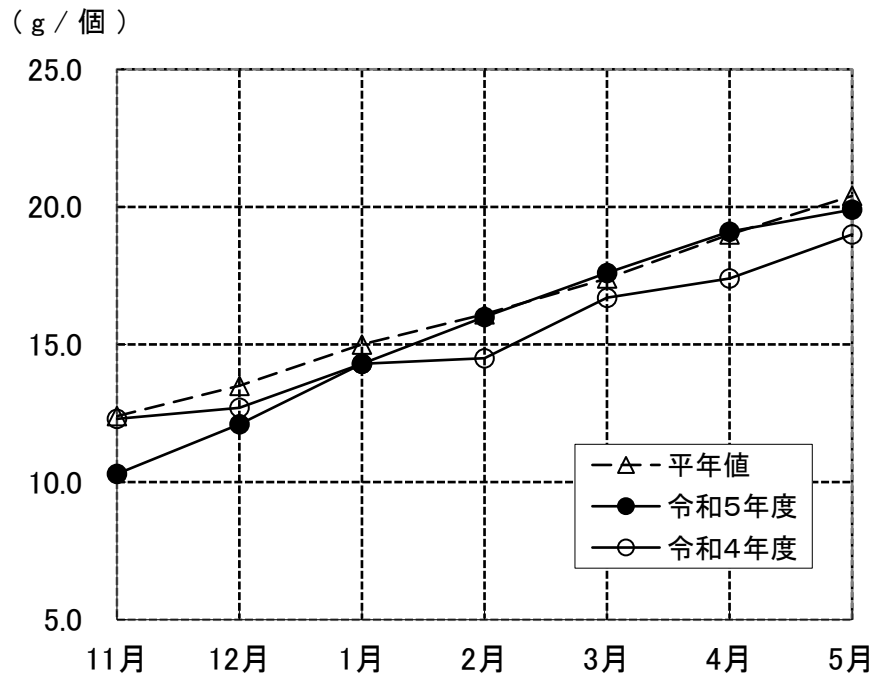
ウ 身入りは、漁期始めは平年を下回り、漁期中盤以降は平年並みで推移したことから、今期の平均むき身重量は、15.3g となり、平年を4ポイント下回った。(第2図)

(3) 出荷状況

ア 調査を行った全国の市場へのかき出荷量は、7,688 トンで、前年を6ポイント下回った。このうち本県出荷量は、2,791 トンで、前年を 11 ポイント下回った。本県出荷量が全国に占める割合は 36% で前年を3ポイント下回った。

イ 漁期前半の出荷は、加工向けの引き合いが強かったものの、生鮮向けが低調で推移したことから、平年を下回って推移した。漁期後半の出荷は、加工向けの需要が引き続き高かったことや、浜値が終始高値で推移した影響から、平年を上回った。(第3図)

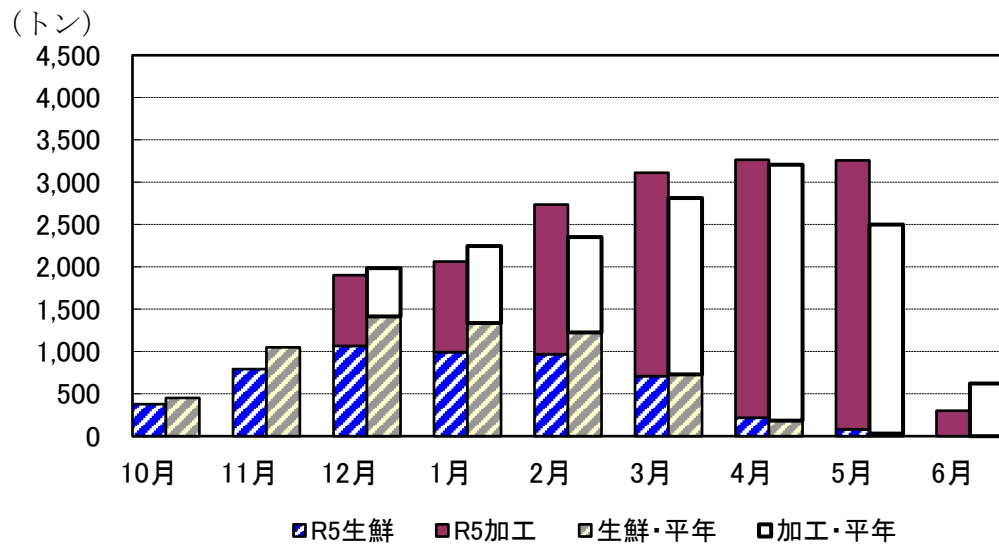
県内の年間平均むき身重量は 15.3g となり、前年（15.0g）を上回ったが、平年（15.9g）を下回った。



(注) 平年値は平成 25 年から令和 4 年の平均

(水産課調べ)

第2図 月別出荷個体重(県平均)



(注) 平年値は平成 25 年から令和 4 年の平均

(水産課調べ)

第3図 用途別月別出荷量

2 生産額

区 分		令和5年度		令和 4年度	平 年
		対前年度 (比率)	対平年 (比率)		
生産額(億円)	237	+24 (111%)	+57 (132%)	213	180
平均単価(円/kg)	1,330	+84 (107%)	+335 (134%)	1,246	995
生鮮向け(円/kg)	1,659	+119 (108%)	+385 (130%)	1,540	1,274
加工向け(円/kg)	1,195	+116 (111%)	+380 (147%)	1,079	815

(注) 平年：平成25～令和4年平均値

(水産課調べ)

(1) 生産額

ア 生産額は237億円で、前年を11ポイント、平年を32ポイント上回った。

イ 生鮮向け生産額は86億円で、前年を9ポイント、平年を5ポイント下回った。

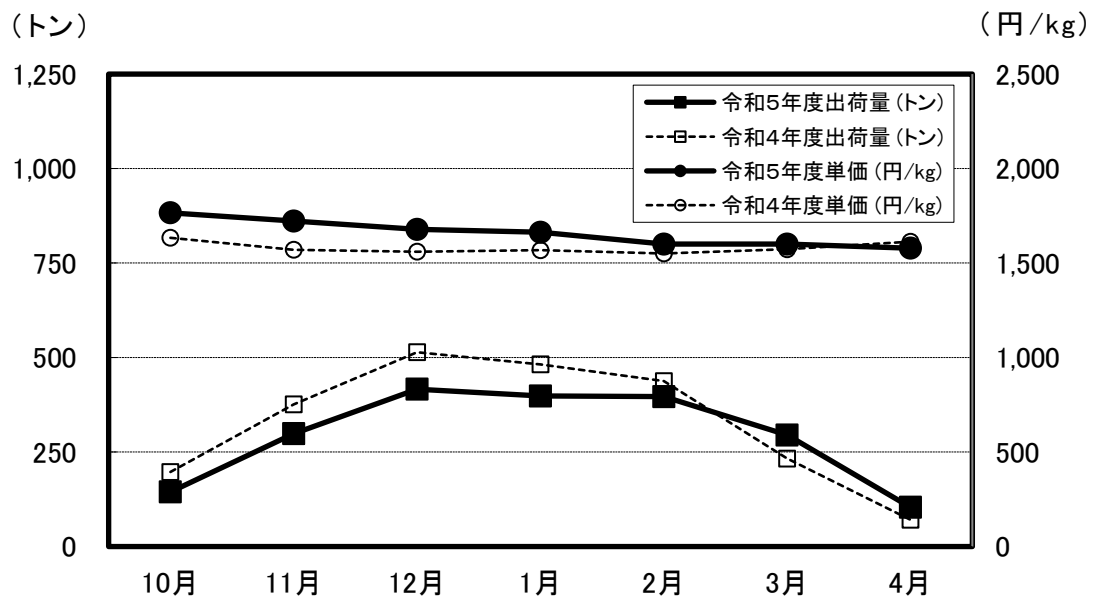
ウ 加工向け生産額は151億円で、前年を28ポイント、平年を70ポイント上回った。

(2) 単価

ア 平均単価は1,330円/kgで、前年を7ポイント、平年を34ポイント上回った。

イ 生鮮向け単価は1,659円/kgで、前年を8ポイント、平年を30ポイント上回った。

ウ 加工向け単価は1,195円/kgで、前年を11ポイント、平年を47ポイント上回った。



第4図 主要市場への出荷実績

(水産課調べ)